

2023年3月期 第2四半期
決算説明資料

2022年10月27日
東邦金属株式会社

証券コード: 5781

TOHO KINZOKU CO.,LTD



会社概要



会社名
東邦金属株式会社

代表取締役社長
小樋 誠二

創立
1950年2月3日

本社
大阪市中央区備後町二丁目4番9号
日本精化ビル2階

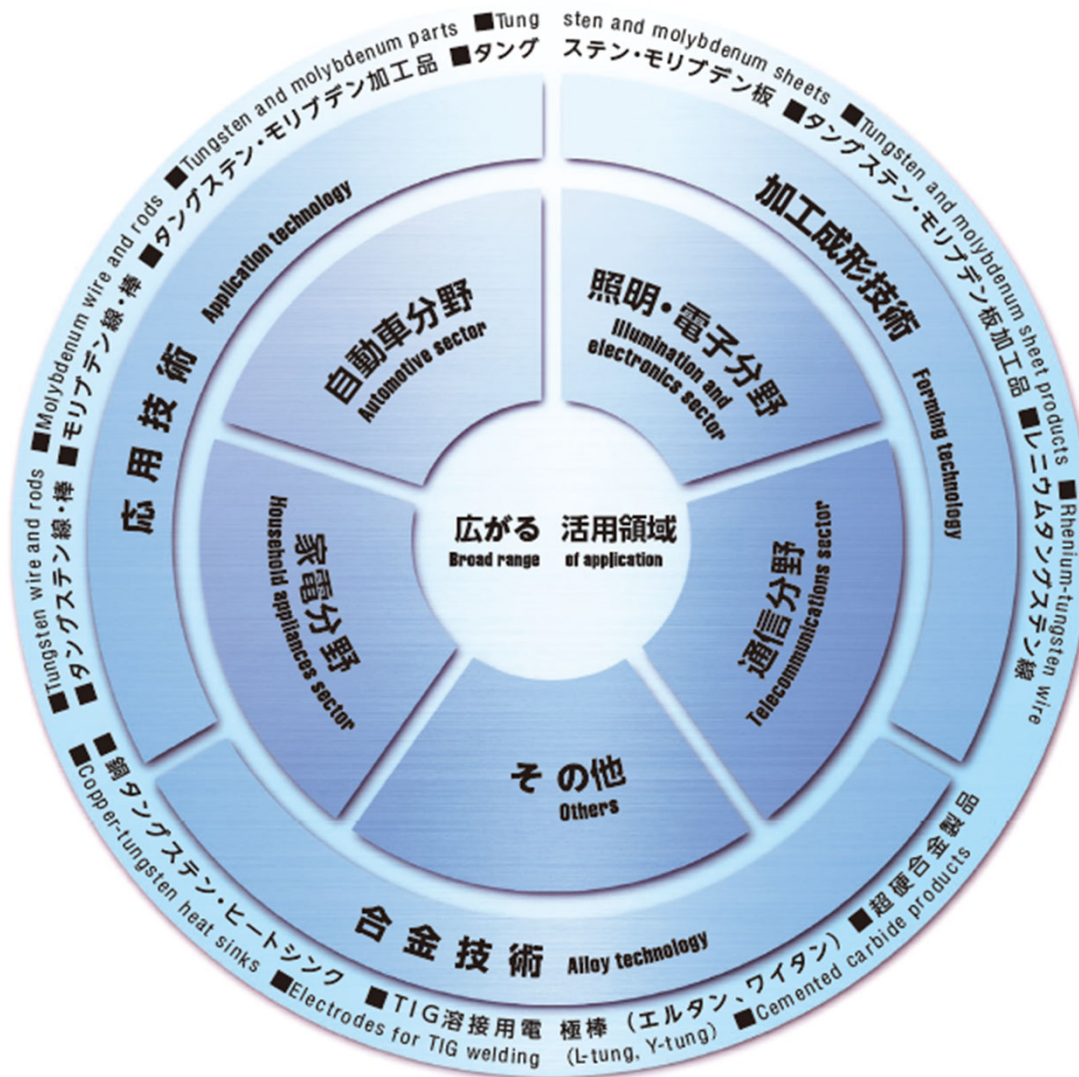
事業所
東京支店(東京都港区)
門司工場(福岡県北九州市)
寝屋川工場(大阪府寝屋川市)

株式
東証スタンダード市場


事業領域



タングステンは、究極の金属のひとつで、最高の融点と最低の蒸気圧をあわせ持ちます。さらに、高温強度、純金属中最低の熱膨張係数、優れた熱伝導度、電気伝導度を有しているため、フィラメント、放電電極、半導体部品、電気接点、X線発生用ターゲット、高温雰囲気炉用発熱材、放射線遮蔽材といった用途に広く使用されています。



モリブデンは、良好な加工性、高温強度、低熱膨張係数、優れた熱伝導度、電気伝導度を有しているため、マグネトロン用部品、半導体部品、焼結トレイや高温雰囲気炉用発熱材に広く使用されています。

 事業内容

1. タングステン、モリブデンおよび高融点金属製品の製造販売

2. タングステン合金、モリブデン合金および電気接点の製造販売

3. 鉾山都市土木用工具および超硬合金製品の製造販売

4. 前各号の製品製造機械設備の設計、製作、およびその販売



決算概要 — 損益計算書 —

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年比 増減額(増減率)	増減要因
売上高	3,408	2,313	△1,094(△32.1%)	前期に引き続き、タンゲステン・モリブデン製品が好調を推移したが、貴金属電極における代替製品への切替による販売数量の大幅な落ち込み
売上総利益	627	366	△260(△41.5%)	原価低減活動に努めるも、大幅な減収による減益
販管費	250	241	△9(△3.7%)	賞与引当金繰入額、退職慰労引当金繰入額の減少
営業利益	376	125	△251(△66.7%)	
営業外収益	26	23	△2(△9.8%)	
営業外費用	11	21	9(78.5%)	円安による為替差損の計上
経常利益	391	128	△263(△67.2%)	
四半期純利益	307	133	△174(△56.8%)	

💡 決算概要 — 売上高 —

●売上高は、前期に引き続きタングステン・モリブデン製品の需要は底堅く、好調に推移したものの、貴金属電極における代替製品への切替が進んだことによる販売数量の大幅な落ち込みが響き、前年比32.1%減の2,313百万円(前年同四半期3,408百万円)となった。

タングステン・モリブデン製品

前期から引き続き半導体市場での旺盛な需要に支えられ、好調に推移したことにより、1,029百万円(前年同四半期745百万円)と38.0%の増収となった。

焼成品

貴金属電極における材料高騰を受けた自動車用電極部品での他材料への切替が進み、販売数量が大幅に減少したことにより、1,057百万円(前年同四半期2,431百万円)と56.5%の減収となった。

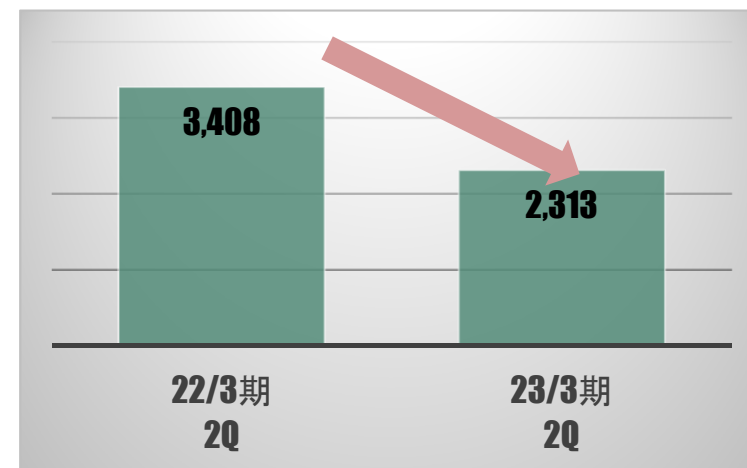
超硬合金

前期に引き続き、トンネル工事の大型現場の需要はあるものの、小型現場の需要が減少し、226百万円(前年同四半期231百万円)と2.0%の減収となった。

(単位:百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年比 増減額(増減率)
売上高	3,408	2,313	△1,094(△32.1%)
タングステン・モリブデン	745	1,029	283(38.0%)
焼成品 (内貴金属電極)	2,431 (81.7%)	1,057 (54.7%)	△1,373(△56.5%) (△70.9%)
超硬合金	231	226	△4(△2.0%)

(単位:百万円)





決算概要 — 貸借対照表 —

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	対前年比 増減額	増減要因
流動資産	3,581	3,651	70	
現金及び預金	493	429	△63	
その他	3,087	3,222	134	原材料及び貯蔵品(+180)
固定資産	2,219	2,121	△98	
有形、無形固定資産	1,412	1,379	△33	
投資その他の資産	806	742	△64	投資有価証券(△61)
資産合計	5,800	5,773	△27	
流動負債	1,683	1,674	△9	未払法人税等(△95)、短期借入金(+90)
固定負債	1,127	1,036	△91	役員退職慰労引当金(△74)
負債合計	2,811	2,710	△100	
株主資本	2,564	2,697	133	四半期純利益
その他	424	364	△60	その他有価証券評価差額金
純資産合計	2,989	3,062	72	
負債純資産合計	5,800	5,773	△27	

業績予想

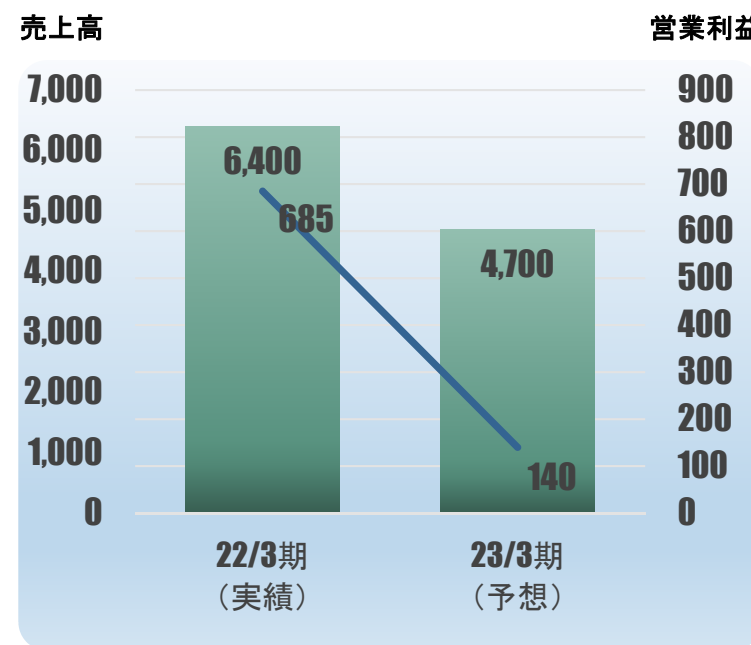
当第2四半期累計期間において、売上高は概ね想定通り推移しているが、利益面では、営業利益、経常利益は材料歩留改善、購入価格低減等の原価低減活動の成果及び鉱石市況上昇、円安に伴う在庫影響の好転により予想数値を超過するとともに、四半期純利益は減資による税負担の減少により利益をさらに増額する結果となった。

この結果を踏まえ、最新の受注動向、鉱石市況価格、為替相場の見通しを精査し、通期の業績予想を修正。第3四半期以降は在庫による影響は見込んでおらず、営業利益、経常利益の増額幅は大きくないものの、更なる業績向上に努めていく。

(単位:百万円)

	2022年 3月期実績	2023年 3月期 前回予想	2023年 3月期 修正予想	対前回予想比 増減額(増減率)
売上高	6,400	4,700	4,700	—(-%)
営業利益	685	110	140	30(27.3%)
経常利益	707	120	150	30(25.0%)
当期純利益	601	95	165	70(73.7%)
1株当たり 当期純利益 (円 銭)	259.59	40.98	71.17	—(-%)

(単位:百万円)





中期経営計画の進捗 ～ REVIVE2026 ～

中期経営計画で成長ドライバーと位置づけしている貴金属電極は、材料市況高騰により、他材料への切替が進んだが、海外向け産業用特殊電極が好調に推移し、落ち込み幅を当初の想定より抑えられている。下期も、好調を維持する見込みである。医療用装置分野において、W重合金の需要が高まり、好調に推移し、下期以降も継続する見込みである。超硬合金は、小型現場の需要減少があったものの、下期には、大型現場の需要が見込まれている。事業分野ごとに増減はあるものの、概ね計画通りに推移している。

【中期経営計画推移】

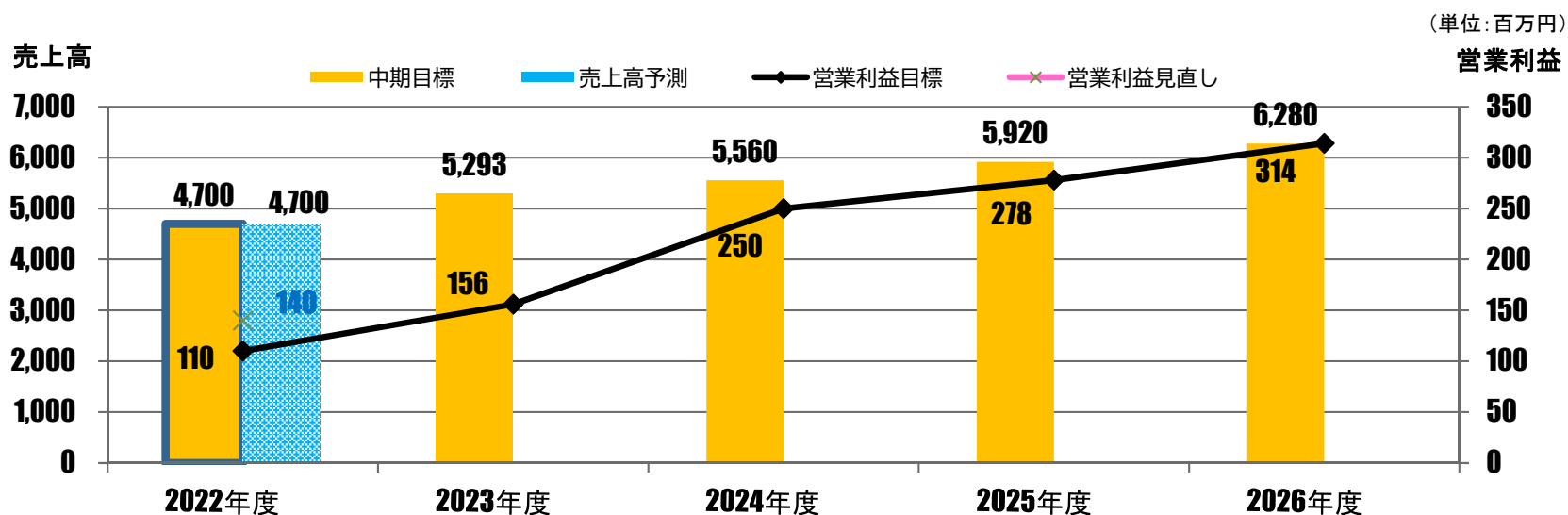
(単位:百万円)

	2022年 計画	2022年 予測	2023年 計画	2024年 計画	2025年 計画	2026年 計画
売上高	4,700	4,700	5,293	5,560	5,920	6,280
営業利益	110	140	156	250	278	314

【中期経営計画品種別販売計画進捗率】

(単位:百万円)

品種	2022年 計画	2022年 第二四半期	進捗率
タングステン・モリブデン	1,820	1,029	56.5%
焼成品	2,424	1,057	42.6%
超硬合金	456	226	49.6%
合計	4,700	2,313	48.6%



技術開発関連情報

三菱電機株式会社・熊本大学と共同で JAXAの研究事業に採択されました！

研究テーマ

「マグネシウム合金ワイヤーを材料に用いたレーザーワイヤー
DED方式AM造形技術の研究」

企業・機関名:三菱電機株式会社

共同機関名(予定):熊本大学／東邦金属株式会社

参照ホームページ「JAXA 研究開発部門 研究紹介」のページをご覧ください。

<https://www.kenkai.jaxa.jp/research/kakushinyusou/request02/rfp-result.html>





本資料の取り扱いについて

本資料の取り扱いについて本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性あるいは完全性について、何ら表明及び保証するものではありません。